

第6学年 教科「おおたの未来づくり」学習指導案

1 単元名

「鶉の木・久が原スマイルプロジェクト」【B 地域創生】（35時間扱い）

2 単元目標

- ・地域の課題を見出し、コンセプトに基づいて、SDGs と関連付けながら課題解決を図ることができる。
- ・地域創生に合った取り組みを、内容を精選・検討してデザインすることができる。
- ・プロジェクトの実現に向けて、試行錯誤をしながら活動に取り組み、地域の一員としての自覚をもたせ、地域をよりよくしようとする意欲を育む。

3 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
コンセプト	<ul style="list-style-type: none"> ① 「鶉の木・久が原スマイルプロジェクト」が、地域と連携して課題を見出す。 ② 健康づくりや SDGs も含めて課題解決を図るプロジェクトであることを理解している。 ③ 課題解決に向けた調査や計画などを行うために必要な知識・技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① コンセプトの意味理解に基づいて、必要な情報の収集方法を考えている。 ② 集めた情報をコンセプトに基づいて分析し、有効な資料として活用できるよう、試行錯誤しながらコンセプトを設定している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① コンセプトを設定するために、地域の方にすすんで質問したり、聞いた話を生かして ICT を活用して情報を収集したりする。 ② 協働的にコンセプト設定に取り組んでいる。
デザイン	<ul style="list-style-type: none"> ① コンセプトに基づいて、「鶉の木・久が原スマイルプロジェクト」を準備・実行するために必要な知識・技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域創生のコンセプトに合った取り組みを、実現可能な内容か検討しながら計画する。 ② 今後も引き継いでいける内容や実施方法なのかを考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクトの計画に主体的に関わり、内容の改善や必要な情報収集に協働的に取り組もうとしている。
クリエイション	<ul style="list-style-type: none"> ① プロジェクト実現のために必要な情報を活用し、地域に貢献・還元できる実施内容に関する知識・技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ① ごみの実態調査や意識調査を整理・分析し、試行錯誤して、スポごみの計画・実施を行う。 ② 事後のまとめを次年度以降の実施を視野に入れて作成し、相手意識に立って発信している。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の方からの助言を生かしながら事後の振り返りを行い、成果と改善点を見出そうとしている。

4 単元について

(1) 単元設定の理由

6年生は、毎年、鶉の木地区の一斉清掃に参加している。今まで6年生が引き継いできた行事で、自分たちが地域の一員と意識する機会の一つである。公園や道路などの清掃でゴミを収集した体験や、住民の生活習慣やゴミに対する意識調査から、地域の実態や特徴を推測することができる。地域のよさや課題など、それらの調査を通して、見えてきたものを出し合い、清掃を含めた活動を計画・実行することで「地域創生」に貢献できないかと考えた。

まず、鶉の木特別出張所長に協力をお願いし、近隣の3町会と連携・助言をいただく。それを受けて、地域の課題である「高齢化」「健康づくり」「ICTの活用」と清掃活動を関連付けた活動を計画する。そして、地域の人々と交流を深めながら、自分たちの住む地域に愛着をもち、住みよいまちづくりという視点をもつことができるようになれば、次代を担う人材を育成できると考えた。

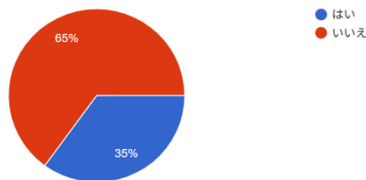
<アンケート結果より>

ゴミ調べの結果で読み取れたことなどから、児童が今後に向けた取り組みとして、SDGsの観点から考えたことは、主に以下の通りであった。

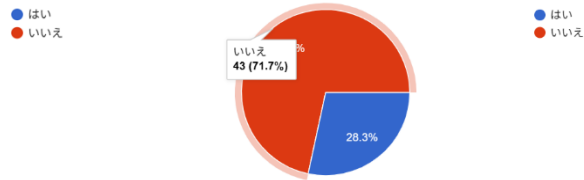
- ・資源化（ゴミとして捨てず、分別してリサイクルできるようにする。）
- ・再利用（メモなどはできるだけ裏紙を使う。衣類などを使い回すなど。）
- ・無駄なゴミを減らす（ビニール袋を買わず、買い物ときはエコバッグを持参する。ペットボトル飲料を買わずにマイボトルを持ち歩く。使い捨ての物ではなく繰り返し使えるラップフィルムや弁当カップを利用する。ジャガイモやリンゴなど、皮つきでも食べられるものは食べてゴミを減らす。）

家庭でできるゴミの削減を地域に提案していきたいという意見が多く出た。

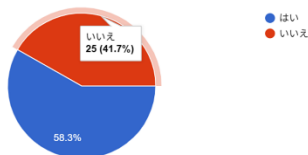
Q6：運動習慣が週に3回以上ある。
60件の回答



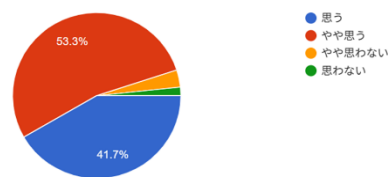
Q7：1日に60分以上歩いている。
60件の回答



Q8：この1年間に、趣味・スポーツ・地域の行事等、何らかの地域活動に参加した。
60件の回答



Q9：今住んでいる地域への愛着を感じている。
60件の回答



保護者を中心とした意識調査では、主に健康についての意識、食生活、運動習慣、地域とのかかわりについて調査した。その結果、検診を受けたり、食生活に気を付けたりする意識は高かったが、スポーツなどの運動習慣が有る人は全体の35%、歩く習慣のある人も28%と、体を動かして健康づくりをする意識がやや低かった。また、地域行事の参加度にも課題があり、この一年間で地域行事に参加した人は全体の58%であった。それに対して、今、住んでいる地域に愛着を感じている人は約95%という結果から、地域への愛着は感じているが、地域行事にはあまり参加していないことがわかる。

以上のことから、児童は、このプロジェクトを通して地域とのかかわりや住みよいまちづくりへの意識を高めながら、体を動かして健康づくりをしたり、SDGsの啓発をしたりできたら地域活性化に貢献できる

のではないかと考えた。

(2) 授業パートナーとの連携

企業名	依頼内容	資質能力の育成にどんな効果が期待できるか
・鵜の木東町内会 ・鵜の木西町内会 ・南久が原一丁目町内会 ・鵜の木特別出張所	・特別授業の講師 ・企画についての助言 ・企画への協力 ・まとめの会の講評	・地域の実態を知ること、課題意識をもつことができる。 ・企画への助言や事後のまとめのフィードバックをもらうことで、課題解決への意識をさらに高めることができる。

5 児童の実態

略

6 指導の手だて

(1) 継続性

「コンセプト」では、

- ① 地域の一員としての自覚をもたせ、地域をよりよくしようとする意欲を高めるために、町会長から地域の現状や課題について話を聞き、地域の現状に興味関心をもてるようにする。
- ② 情報を整理して分析するために、ICTを活用する。大田区の年間のごみの排出量や、リサイクル率などを調べることで、大田区の現状を知り、課題意識をもてるようにする。
- ③ 継続した活動や解決が大切になることを想起させるために、単元の始めに活動全体の流れを提示し学習の見通しをもたせることで、児童が自分の役割や目的を意識しながら活動に取り組めるようにする。

(2) 試行錯誤

「デザイン」では、

- ① 現状をさらに把握するために、地域の公園に行き、清掃活動を行う。児童は、この体験を通して、公園の様子や環境を確認する。また、ごみの種類や量を目の当たりにすることで、「なぜゴミが出るのか。」「どうすれば減らせるのか。」という問いが生まれる。コンセプトを見直すことで、その後の活動で明確な目的意識をもつことにつながる。
- ② 班ごとに課題解決に向けた計画について話し合い、地域の方にアドバイスをもらう。それを基に今後の活動内容をさらに練り直すことで、地域の課題解決につなげていく。

(3) 思考の振り返り

「クリエイション」では、

- ① 自分たちの取り組みが、「地域の活性化につながったのか。」「今後も継続できるものであったのか。」という視点で振り返り、成果と課題をスライドにまとめる。
- ② 来年度、自分たちの取り組みや活動を引き継ぐ5年生や町会長の方々、鵜の木特別出張所の方に最終発表を行う。下級生に、地域の課題と現状や課題解決に向けた取り組みを知ってもらうことで、清掃や環境保全の活動を今回の体験で終わらせず、継続的な取り組みへとつなげていく。

7 指導計画

時	過程 学習	<p>○主な学習活動 ★指導の手だて〈具体的手だて〉</p> <p>◇授業パートナーとの連携</p>	<p>◆評価規準【観点】</p> <p>(方法)</p>
1 ～ 9	コンセプト	<p>1</p> <p>○特別授業で地域の方から、地域の課題を聞く。</p> <p>◇〈鶺の木・久が原地区 町会長さん〉</p> <p>★〈継続性〉①</p>	<p>◆【知識・技能】①</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
		<p>2</p> <p>○鶺の木特別出張所の片寄さんからの地域の課題について確認する。</p> <p>◇〈鶺の木特別出張所 片寄さん〉</p>	<p>◆【思考・判断・表現】①</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
		<p>3～7</p> <p>○健康に関することやごみの排出量について調査を行う。</p> <p>★〈継続性〉②</p>	<p>◆【知識・技能】③</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>◆【思考・判断・表現】②</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>◆【主体的に取り組む態度】①</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
		<p>8～9</p> <p>○「住み続けられるまちづくり(持続可能な社会)を重点に置いたSDGsの視点を取り入れて「地域のためにできること」を考える。</p> <p>★〈継続性〉③</p>	<p>◆【知識・技能】②</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
10 ～ 25	デザイン(本時)	<p>10～12</p> <p>○地域の課題や調査から見えてきた課題をもとに、課題をよりよく解決する取り組みを考える。</p> <p>★〈試行錯誤〉①</p>	<p>◆【知識・技能】①</p> <p>(発言・ワークシート)</p> <p>◆【思考・判断・表現】①</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
		<p>13～15</p> <p>○チームごと(地図・チェックポイント・スタンプチーム、掲示物・ゴール配布物チーム、当日の全体計画チーム)に資料を作成する。</p>	<p>◆【主体的に取り組む態度】①</p> <p>(発言・ワークシート)</p>
		<p>16【本時】</p> <p>○地域の方、特別出張所の方にそれぞれのチームで考えた、「コンセプトに基づいた取り組み案」を見てもらい、フィードバックを受ける。</p> <p>◇〈鶺の木・久が原3地区 各町会長さん〉</p> <p>◇〈鶺の木特別出張所長 片寄さん〉</p> <p>★〈試行錯誤〉②</p>	<p>◆【思考・判断・表現】①</p> <p>(発言・ワークシート)</p>

10 25	デザイン (本時)	17~18 ○フィードバックを基に計画を練り直す。	◆【知識・技能】①(発言・ワークシート) ◆【思考・判断・表現】②(発言・ワークシート)
		19~25 ○清掃活動の役割分担をして、準備をする。 ○駅や地域の掲示板等にポスターを張り出して、地域の方々に周知する。	◆【主体的に取り組む態度】①(発言・ワークシート)
26 35	クリエイション	26~27 ○実際に計画した活動を行う。 ◇<鶺鴒の木特別出張所 片寄さん> ◇<鶺鴒の木・久が原地区 町会長さん>	◆【知識・技能】①(発言・ワークシート) ◆【思考・判断・表現】①(発言・ワークシート)
		28~29 ○学習を振り返り、成果や課題をまとめる。 ★コンセプトを達成できたか、今後も継続できるものであったかという視点で、振り返りを行わせる。 ★<思考の振り返り>①	◆【主体的に取り組む態度】①(発言・ワークシート)
		30 ○まとめた成果や課題を各学級で発表する。	◆【思考・判断・表現】②(発言・ワークシート)
		31~32 ○5年生に報告発表するために、修正をする。	◆【思考・判断・表現】②(発言・ワークシート)
		33 ○5年生、3町会長、鶺鴒の木特別出張所長に発表する。 ★<思考の振り返り>②	◆【思考・判断・表現】②(発言・ワークシート・スライド)
		34~35 ○単元の学習を振り返り、これからの自分たちの生活に生かすことを考える。	◆【知識・技能】①(発言・ワークシート)

8 本時の指導（全35時間中の第16時）

(1) 目標

- ・まちの課題を見出し、解決するアイデアを考え、友達と話し合ったり大人のアドバイスを受けてたりして、解決しようとする。
- ・様々な人の立場に立ち、多くの人に関われる課題解決のプロジェクトをデザインする。
- ・プロジェクトの実現に向けて、試行錯誤をしながら活動に取り組み、地域をよりよくしようとする意欲を育む。

(2) 展開

	○主な学習活動 ・予想される児童の反応	◆評価規準【観点】(方法) ★指導の手だて〈具体的手だて〉
導入 5分	<p>単元の主題を確認する 「まちの課題を解決できるプロジェクトを計画しよう」</p> <p>○本時のめあてを確認する。 SDGsにつながるようなスゴごみの計画を立てる スゴごみのコンセプトとして「短い時間で、だれでも、手軽にできる」を推していく</p>	
展開 35分 (話し合い20分 修正10分 記録5分)	<p>○4つのグループに分かれ、美化計画を考える</p> <p>Aグループ (6-1教室) ・チェックポイントの場所、数 ・スタンプカード (6-1前廊下) ・ルール作り、危険なところなど</p> <p>Bグループ (6-2教室) ・掲示物(キャッチコピー) ・掲示場所 ・周知方法</p> <p>Cグループ (6-3教室) ・出発前や解散などの当日の運営 ・当日に用意するもの</p> <p>Dグループ (6-4教室) ・ゴール地点の展示物、参加賞など</p> <p>○今日の話し合いで決まったことや、疑問に思ったこと、次回話し合いたいことなどを記録する。 ○記録した内容を発表し、全体へ周知するとともに、自分たちの話し合いがまちの課題の解決(ごみ・健康)と結びついているか確認し合う。</p>	<p>★町会長さん3名と、特別出張所の片寄さんは1グループに8分くらい入ってもらい、それぞれのグループに助言していただく。助言を生かして、さらにより計画になるようにもう一度考え、話し合わせる。(2)-②</p> <p>◆高齢者、ファミリー、若者など様々な立場の人に立って、自分の考えを発言している。 【思考・判断・表現】①(観察)</p> <p>◆友達の発言を好意的に受け止め、建設的な話し合いをしようとしている。 【主体的に取り組む態度】①(観察)</p> <p>◆話し合いの要点をまとめたり、次回への見通しをもったりして主体的に話し合いに参加している。 【主体的に取り組む態度】①(記録)</p> <p>★大人から総評をいただくことによって、アイデアを練り上げ、次時の活動につなげる。(2)-②</p>
振り返り 5分	○次の時間に考えることや話し合うことについて、グループでまとめ、活動の見通しをもつ。	

(3) 授業観察の視点

- ・話し合いの内容や活動の計画が地域のよさの確認や、地域創生につながるものになっていたか。
- ・本時までには子どもたちが練り上げた活動の内容が、持続可能なものとしてふさわしいか。